

2020 年度入学試験問題 出題趣旨（刑事訴訟法）

小問 1 は、捜査段階における被疑者の身体拘束からの救済手段について、各種の制度を把握しているか否かを問うものである。少なくとも、制度的な選択肢としては、準抗告のみに尽きるわけではないことも意識されたい。

小問 2 は、勾留の理由と必要性について、事実に即して説明することが期待される。勾留の理由と必要性の関係を意識しつつ、被疑者の供述態度を含めた事例中の事実を分析的に検討することが期待される。また、最決平成 26 年 11 月 17 日判タ 1409 号 123 頁②事件を意識することができれば、より深い検討をなしうるだろう。

小問 3 は、刑事弁護制度の趣旨、存在意義について、罪を認めている被告人の場合を例として問うものである。冤罪を防ぐことのみならず、刑事司法制度の水準の維持、情状弁護を含めた刑事政策的な役割、被告人の最低限の自由を保障する機能などが考えられる。